

就任挨拶

副会長
雨宮 一信



副会長を拝命しましたオムロンの雨宮と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

このたび歴史のある知財協の副会長という大役を仰せつかったことは、たいへん名誉なことと感じる反面、大役の責任を果たせるか一抹の不安も感じておりますが、関係者のご支援ご協力を賜り、役を務めて行きたいと思っております。

私は、営業を中心に仕事をし直近では新規事業の立ち上げを行う事業本部をへて、現在、知財をはじめ人事、経理、法務などの本社機能部門を統括する本部を担当しております。知財歴は事業本部にも知財部門があったので、間接管理の水増しをお許しいただければ5年といったところです。

ここでは、知的財産を担う“人財”についての考えをご紹介します挨拶に代えたいと思っております。

まず、知的財産活動は、「ものづくり」に不可欠なイノベーションを推進するもので、自社のオリジナリティにあふれる重要な技術を資産化し、技術投資を事業利益に転換する活動を支える行為です。また、この知的財産活動を推進する知的財産部門は、研究開発と事業を結ぶポジションに位置し、「技術の目利き役」「つなぎ役」として活動し、更に経営の視点とグローバルの視点をも併せ持つ必要があります。そして、最も重要なことは知的財産の創造から資産化までを担える“人財”を育成していくことだと考えています。

しかし、今、企業において「人間力」が喪失し、中長期的な視点での“人財”活用や育成がおろそかにされ、“人財”が生み出す発明、ノウハウが継続的に蓄積されなくなり、技術を源泉とする企業、特に製造業において「技術力の低下」を招いているのではないのでしょうか。さらに、組織としてのマネージメント力、チーム力が弱体化したことで、知的生産全般が脆弱化しているのではないのでしょうか。もう一度日本の企業が世界をリードしていくためには、技術シーズを発掘する「研究」、製品化する「開発」、事業を立ち上げる「事業化」、そして事業として展開する「産業化」の流れに対し、工学の視点と経営の視点を併せ持った知的財産の創造から資産化までを担える“人財”を育成していくことが重要であり、その変革の推進が知財部門に最も期待されているのではないのでしょうか。

知的財産の意義を今一度明確にし、それを担う“人財”を育成することが非常に重要なことだと思います。私自身も知的財産について課題意識を持ち、視野を広げ、会長はじめ皆様の力になれるよう活動してまいりたいと思っております。

よろしく申し上げます。